

につぼん丸乗船記  
ー横浜～名古屋・ワンナイト・クルーズー

NPO法人・伊勢湾フォーラム

田村伴次（たむら ともつぐ）



## 1. はじめに

このクルーズの始まる約1週間前、6月6日アジュール竹芝で（一社）ウォーター・フロント協会の総会があった。私はこの協会から「みなと・まちづくり・マイスター」を仰せつかっているのので、行き掛かり上出席することとしていた。

先輩とも当地で会う予定で、3階の和式レストランで昼食をとり、総会開会までの時間をともにした。和式レストラン前面の竹芝栈橋旅客上屋の屋上ベンチに腰を掛けて、東京港を見ながらいろいろ話をした。

竹芝栈橋から海を見ると、右前方には品川埠頭の遠景が見られ、すぐ右側にはレインボーブリッジ、その前方にはフジテレビ、直前には晴海埠頭、左側には今話題の築地中央市場がある。前面の隅田川をあがり下りする遊覧船も多く、長い時間眺めても見飽きない。

こんな港風景を見ていると、岡山津山城跡近傍にある津山郷土博物館に掲げてあった「知は海より来る」という言葉を思い起こした。港は人とモノが「知を媒介」にして交わるころと思った。

平成25年（2013）インバウンドのクルーズ客は17.4万人。それから、平成26年（2014）41.6万人、平成27年（2015）111.6万人、平成28年（2016）199.2万人と僅か3年間で11倍と恐ろしい勢いで増加している。

そんな背景もあり、政府港湾局も港湾法を改定し（6月2日可決成立）クルーズ船寄港について「受け入れ環境の整備」に乗り出す準備をしている。このような状況下一度クルーズ船に乗り感想をとという機会の提供があった。

クルーズ大好き人間であるが、ワンナイト・クルーズという体験は初めてであり、港も横浜港と、名古屋港でよく知っている港でもあり「港側の環境整備」を見るという面ではさしたること、あるいは話題を提供できないくらいがある。

そんなことでやや忸怩たるものがあるが、以下は私の楽しんだ乗船記である。

## 2. 第1日・平成29年（2017）6月12日（月）

梅雨空を忘れさず快晴である。夕方16時より横浜港旅客上屋で受け付け開始ということで、少しゆっくり赤レンガ倉庫など見学しようと名古屋の我が家は正午出発のバスに乗り、名古屋駅13時12分の「のぞみ乗車」で横浜に向かった。新横浜から横浜に出て、

横浜駅で、みなとみらい線に乗り換え日本大通り駅下車で、大栈橋に向かう。横浜スタジアムが背景にあった。その昔二建があり、港湾局の方は今のDeNA（その頃大洋ホエールズ）のファンの方が多かった。来栖義明さんの御嬢さんと星野仙一選手（中日ドラゴンズ）との関係で中日ファンも多少港湾局におられるようであるが、今年の中日は情けないの一言である。

結局赤レンガ倉庫は遠景で眺め定時に乗船した。丁度「ぱしふいっくびいなす」も入港しており「にっぽん丸」と2隻に乗船するお客で旅客上屋は賑やかであった。

大栈橋に来るたびにこの施設は素晴らしいと思う。特に景観設計がよく緑も多く配置し木材の使用も素晴らしく親しみやすい。ベイブリッジのクリアランスの関係で、大黒ふ頭にクルーズ船バースのシフトが必要とのことであるが、この大栈橋クルーズ船バースはアクセスもよくCIQなど配慮が行き届いた旅客施設といつも感じる。

写真一 大栈橋のにっぽん丸



乗船して、衣類の整理が終わると法定の避難訓練があり、すぐに出港セレモニーでシャパンをいただきテープを投げ、いつものことながら旅立ちの気分となった。

今回は特別のセレモニーはなかったが、出発ゲートの付近で数人の方が軽音楽で送ってくれた。部屋に戻ると、5時30分よりの一度目のデナー時間である。私は食事番号が一度目で食事に出かけた。今回のツアーもお年を召した御夫婦、年配ご婦人のグループが中心で男性グループというのは皆無と感じた。食の「にっぽん丸」であるので、メニューの

紹介をする。

### ウェルカム・ディナー

～オードブル～

オマールの冷製 ビスクソース

焼きパイア フリーゼライン

トレビス アボガド デイル

～冷たいスープ～

燻製ポテトのヴィシソワーズとコンソメメジュレ

シブレット

～魚料理～

金華サーモンのパイ包み焼き

グリヴィッシュ風ブルブランソース

帆立ムース 3色パプリカ ほうれん草 白しめじ

パプリカソース 香草

～お口直しの氷菓～

シークワサーのグラニテ

～肉料理～

牛フィレ肉のオニオンクリームステーキ

白味噌 赤ワインソース

ロマネスコ 3色カリフラワー 南瓜ムース

～サラダ～

フルーツトマト パルミット クリスタルリーフ

ヨーグルトドレッシング

～パン～

にっぽん丸特製パン バター

～デザート～

ラズベリーとマンゴーのケーキ

～お飲み物～

コーヒー エスプレッソ 今夕の紅茶（ダージリン ザ ファーストフラッシュ）

メニューをそのまま転記した。私は年のことも考え和食が欲しかったが味もよく量も適当でよかった。

食事の後船内を少し歩いた。ライブラリーのスポーツ新聞で日曜日（月曜日新聞休刊日）の中日ドラゴンズを確認した後ジャンボバスを楽しんだ。日本船の特徴はジャンボ・バスとシャワー・トイレとのことであるが、時間のこともあるのか利用者は数人でゆったりと風呂を味わった。

お風呂の後9時からショータイムを楽しんだ。今回は高橋薫子（藤原歌劇団所属オペラ

歌手ソプラノ)さんのコンサートで声も豊かで10時30分まで楽しんだ。その後就寝揺れなどほとんど感じなかった。

### 3. 第2日・平成29年(2017)6月13日(火)

朝起床は6時で、すぐにジャンボバスで朝風呂を楽しんだが、日本人の習性か沢山の方が利用していた。風呂を出るともう朝食の時間、朝食は和食としたが種類も多く満足であった。以下にメニューの紹介をする。

#### 和食

青さ海苔と湯葉の味噌汁  
紅塩鮭の火取り  
冷やし温度玉子の野菜餡かけ  
枝豆天の含め煮  
牛肉時雨煮  
揚げ出汁豆腐の卸し飴  
納豆、味付け海苔、香の物  
①白粥②本日のお粥(ニラ玉粥)③御飯  
日本茶

#### 洋食

ベジタブルチャウダー  
カットフルーツ ドライフルーツシロップ漬け  
ポーチドエッグ ボイルドエッグ  
鶏肉のグリル ローズマリー風味  
茄子、ズッキーニ、トマトの香草パン粉焼き  
ドライカレードリア  
グリルドベーコン、グリルドポークハム、グリルドポークソーセージ  
フレッシュサラダ  
サラダ水菜、大根、貝割れ大根、揚げチリメンのサラダ  
チーズ各種 乳製品各種  
パン各種 バター、ジャム、マーマレード  
シリアル各種、ミルク、ジュース各種、オートミール  
伝統のにつぼん丸ビーフカレー  
～エッグ・ステーション～  
トッピング  
(トマト、チーズ、ミックスハム、オニオン、牛スジ煮)  
コーヒー、紅茶、エスプレッソ

名古屋港ガーデンふ頭は時間通りの着岸で、中部地勢の港湾関係の方々の出迎えというかお心遣いがあり感謝であった。船客のなかの日本港湾協会等の方々のご紹介を港湾空港部

長の中崎さんから受け、伊勢湾フォーラム柳田幸子さんも駆けつけていただきバス・ツアーに出発した。

ガーデンふ頭に旅客上屋はなく、ポートビルがその代替をしているが、お客の休憩面など施設不足で、将来金城ふ頭に旅客上屋を計画するとすれば、アクセスを考え東側バースに安全面も考慮し2階建てで、空港ビルの旅客ラウンジのような休憩施設はぜひ設置していただきたい。C I Q用、旅行会社用のブースは当然の設備である。また適当な駐車場は必須条件である。

船のお客様とお話をしていると、オンランド・ツアーは高山、上高地という方が多いように感じた。私どもは長良川の鮎を楽しむということで岐阜に出かけた。

築地口北から高速に乗り美濃市の道の駅「にわか茶屋」で一服した。ここでは産直の野菜など品質が良く、安価と感じた。わたしは玉蜀黍を3本購入したが、これは美味しかった。近くのうだつの上がる町並みを拝見した。

写真一2 うだつの上がる町



うだつとは火事のおり隣家からの類焼を防ぐ防火壁のことであるが、この地は江戸時代から美濃和紙、宿場宿、造り酒屋など豪商が軒を連ね、うだつは富の象徴として粋を競ったようで、今も町並みがよく保存され、ゆったりとした時間を過ごすことができた。私は長良川左岸に存在する古い川湊灯台（上有知湊・こうずち・みなと）に興味を持った。この風景を写真一3に示す。

写真一3 上有<sup>こうづち</sup>知湊（川湊灯台）



この後関市の小瀬（おぜ）の鵜飼の説明や昼食が予定されており、鵜匠の家岩佐に向かった。同じ長良川と思えない鄙びた感じのところであった。長良川の鵜飼いは我国で唯一皇室御用の鵜飼いで、全国に膾炙されている岐阜で6家の宮内庁式部職鵜匠、私どもが訪れた小瀬で3家の宮内庁式部職鵜匠がおられる。今回はその岩佐家の鵜匠岩佐昌秋さまから鵜飼の説明と鵜の習性など細かいご説明をいただいた。

そのあと鵜匠の家「岩佐」で鮎料理のフルコースをいただいた。その味に感激した。もともと川魚は生臭いように感じ、魚は海魚と思っていたが、今回いただいた鮎料理はその先入観を完全に払拭し余りあった。鮎はすべて天然鮎とのことで、よい食材をその食材をよく知った料理人が料理するところゆう料理になるかと納得した。おしながきを記す。

突き出し（枝豆、うるり）

生大根の酢の物ごまあえ

揚げ茄子（からし西京味噌）

鮎の甘露煮

黒ごま豆腐

汐焼き

お吸い物

姿寿司（6月まで）

魚田

サラダ

揚げ物（フライ）

鮎雑炊

デザート

上記の昼食は大満足でゆったりと食し、特に鮎雑炊は秀逸で皆さんお代わりをしていた。

姿寿司は鮎の押し寿司で見た目も鮮やかで味もよく生まれて始めて食した。

この小瀬の鵜飼いは環境が昔と一緒に、辺りに都会の夜の照明がなく漆黒のなかの鵜飼いで風情が一層高まるという説明であった。一度夜来たいと思った。写真一4にこのあたりの長良川を示す。

写真一4 小瀬の長良川



この後岐阜の川原町に寄った。岐阜の鵜飼船の発着場あたりで、150年の歴史を有す

る温泉宿「十八楼」を中心に川原町は電柱を地下化風情のある落ち着いた街並みだった。  
この辺りは岐阜長提灯が軒下に飾られ風情があった。その風景を写真―5に示す。

写真―5 川原町の風景と岐阜提灯（電柱がない）



ここで私は扇子を購入した。扇子には「おもしろうて やがて かなしき 鶺鴒かな」とあった。ゆったりとした時間を過ごし名古屋駅に午後5時30分に着いた。近くでありながらあまり知らない文化と食に触れ大満足なオンランド・ツアーであった。

#### 4. まとめ

今回横浜～名古屋というワンナイトクルーズに参加させていただき、何か役に立つ情報と思ったが、結局いつものクルーズと一緒に楽しんでた。それでもいくつか話題提供ということで纏めてみた。

・名古屋港の旅客上屋は、これから先のクルーズ客の動向を眺める必要があるが、ガーデンふ頭でポートビルを代替施設として利用する前提では、休憩用の椅子などもう少し整備が必要と思う。金城ふ頭に新たに整備するとすれば、旅客の「安全、安心」を考え2階建ての旅客上屋が望ましい（津波対策）場所はアクセスを考え東側バースがよい。また適当な駐車スペースを必要とする。

・今回オンランド・ツアーは近場の岐阜としたが、知られていないよい場所があり、旅行社に知っていただき活用が必要と思った。小瀬の鶺鴒いなどクルーズ船の出航時間を遅くすることにより十分見学が可能で、伝統的な漁法を楽しんでいただけたと思う。



・旧知の奈良大学藤原教授は、京都観光について多くの京都市民は観光客受け入れを努力してきた。しかしリスペクトもないまま多くの観光客が来られる。いわば「観光客の育ちすぎ」を感じ、完全なキャパシティ・オーバーで、昔の風情もなくなってきた。昨今では夜桜の照明なども行わずサービスを落としている。市民が観光に対し自衛を感じていると言っている。

今回のオンランド・ツアーでも、相変わらず高山、上高地が人気であった。しかし観光地の受け入れの適正さなど考えると、旅行社や地方自治体はよく知恵をだし、地域住民がウエルカムの状況を作り出す必要を痛感している。そんなことで今回の岐阜ツアーは新しい視点を与えていただいた。

以上